

1. 地域公共交通に関する課題

課題1：東京・水戸方面への広域移動を支える市外の鉄道駅を結ぶバス路線の継続運行

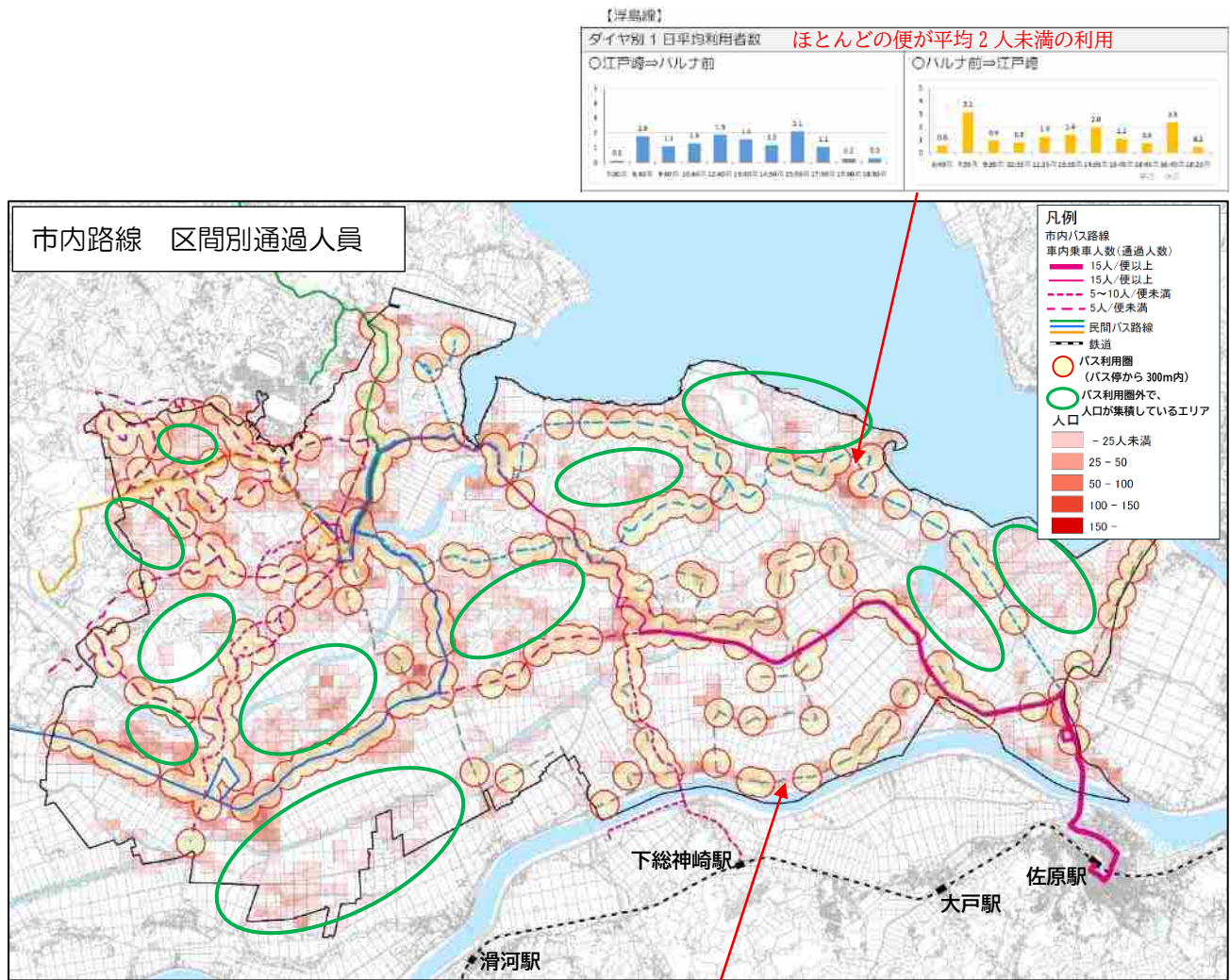
- ・通勤通学等の人流動向をみると、鉄道駅を含む周辺自治体のへの流動が多く、鉄道駅がない本市においては、東京・水戸方面への広域移動を支える市外の鉄道駅を結ぶ民間路線バス及び稲敷エリア広域バスは非常に重要な移動手段である。また、それらの路線沿線には複数の高校、病院等も立地しており、日常生活において必要不可欠な路線であるため、継続運行が求められる。
- ・運転手不足等の厳しい事業経営による民間路線バスの撤退時には、市外の商業施設や病院等への移動手段を早急に確保する必要がある。

課題2：各地域の需要・ニーズに対応した地域内交通の改善

- ・市内には合併前の歴史的経緯や地理的条件から、買物・通院などの日常生活圏が異なる複数の地域が存在し、さらに西側（江戸崎・新利根）は常磐線沿線駅方面へ、東側（桜川・東）は県境を越えた成田線佐原駅・下総神崎駅方面へと広域移動需要においても異なっている。
- ・日常生活の移動は自家用車に依存しており、公共交通を利用する割合は少ない。
- ・公共交通による市内移動については、市内路線バス・コミュニティバスを中心にタクシー（地域交通利用券の交付）が面的に補完することで市全域をカバーしている。
- ・少子化による小学校統合に伴うスクールバスや複数の高校スクールバスも運行しており、路線バスの利用者減少が進んでいるほか、昼時間帯の利用が少ないなどの問題を抱えている。
- ・将来においては、人口減少・少子高齢化が進み、高齢者人口自体も減少していくと推計されていることから、さらなる公共交通の利用者減少に対応していくことも求められる。
- ・市民の足を確保していくうえで、利用者の少ないエリアや時間帯においては、身の丈に合った効率的な移動手段や、地域の実状に合わせてより柔軟に対応できる運行形態を検討していく必要がある。
- ・路線バスを補完しているタクシーにおいては、事業者の廃業や運転手不足等により事業を維持することが困難になりつつあることから、タクシー事業者への支援施策や代替交通手段を検討・導入していく必要がある。



■地域特性と交通サービスとの関連（資料編 P59 抜粋）



あずまコミュニティバスは、人口集積が低いエリアであり、曜日運行により利用できない日もあり、どのルートにおいても平均 1 人未満の利用となっている便が多い。



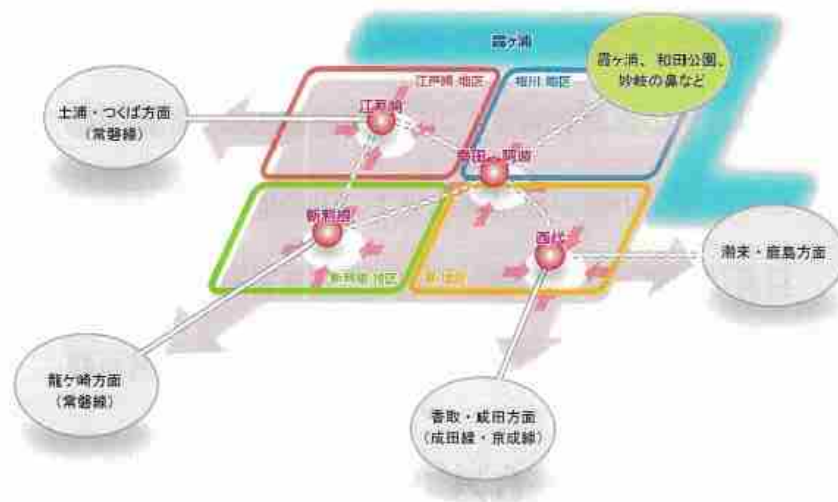
課題3：まちづくりとの連携

- ・上位計画である第3次総合計画における土地利用構想や都市計画マスタープランにおける4つの拠点の考え方を踏まえ、持続可能なまちづくり『稲敷市版コンパクト・プラス・ネットワーク』の実現を目指しており、計画と整合したネットワーク・交通結節点の整備が求められる。

■第3次総合計画における土地利用構想



■稲敷市版コンパクト・プラス・ネットワークの全体イメージ



課題4：持続可能な地域公共交通の構築に向けた新たな制度の活用や新技術の導入

- ・運転手不足、新型コロナウイルス感染症拡大後のライフスタイルの変化、ＩＣＴの発展・普及など、公共交通を取り巻く社会情勢の変化に対応するため、国においては地域交通の再構築に向けた取り組みとして「地域交通の『リ・デザイン』」を提言した。
- ・さらに、全国各地の「交通空白」の解消に向けて、自家用有償旅客運送（公共ライドシェア）や地域の自家用車・一般ドライバーを活用した新制度（日本版ライドシェア）の活用も提言された。
- ・本市においても、従来の運行形態に留まらず、新たな制度の活用や新技術の導入を検討し、持続可能な地域公共交通を構築していく必要がある。